

新型コロナウイルス新時代 ～罹患後の感染症との付き合い方～

2023年に入り、新型コロナウイルス感染症対策は継続して行われています。直近では、感染症法の分類を「2類」から「5類」に位置づけを変更する議論や日常生活でのマスク着用の影響についてなどが取り沙汰されており、今年は、特に新型コロナウイルスへの対応が変化していく年になる事が予想されます。

【職域でも“新型コロナウイルス感染症との付き合い方”が注目されている】

公益社団法人日本産業衛生学および一般社団法人日本渡航医学会による「**職域のための新型コロナウイルス感染症対策ガイド**」が公開されており、2022年12月27日には、これまでの第5版の内容から新型コロナウイルスに関する知見が増え、ウィズコロナ社会での新型コロナウイルス感染症との付き合い方にも着目した第6版へと変更になっています。

[職域のための新型コロナウイルス感染症対策ガイド 第6版\(2022.12.27\)](https://sanei.or.jp)
(sanei.or.jp)

【注目ポイント】

「新型コロナウイルス罹患後症状(後遺症)への対応」について追加されました。

症状:疲労感・倦怠感、嗅覚障害、味覚障害、睡眠障害、筋力低下、関節痛、筋肉痛、頭痛、咳、動悸、息切れ、共通、脱毛、記憶症状、集中力低下、抑うつ など

※症状についてお困りな事はかかりつけ医や地域の医療機関を受診しましょう！

【感染症対策をしながら働きやすい職場環境や雰囲気づくりを！】

感染症対策のため、他者との適切な距離を保つようにしてきました。これまで“ソーシャルディスタンス”と言われていましたが、今回の改訂では“フィジカルディスタンス”と名称が変更されました。昨今では物理的な距離だけでなく、心理的な距離までも広がり、メンタルヘルスに大きな影響を与える事が注目されています。

①**罹患後はルールに基づきつつも、個人の回復度や症状に合わせた調整を行いましょう。**
いわゆる後遺症と呼ばれる症状やその度合いは千差万別です。決められたルールを行使するだけでなく、療養明け、1週間後、1か月後など定期的な面談を行い、個人の状態に合わせて段階的に業務を担当していく事が重要です。

②**日頃からの他愛のない話も含めて会話をする習慣を作りましょう。**

<職場での人間関係作りで苦勞する点>

- ・関係を作る事が生産性に直接関与するとは限らないこと。
- ・会話を好む人と好まない人など異なる考えを持つ従業員が混在していること。

1on1 ミーティングなど上司と部下で話をするための特別な機会を設ける必要があります。

療養から復職する際の産業医による助言が必要な場合には産業医サービスを。また、関係作りや対人関係のお悩みがある企業様にはEAPやセミナーのご利用はいかがでしょうか。

Mail : info@mrc-sapporo.co.jp

電話番号 : 011-209-0556

